

課程改善 教科書 新教科書

198.11.14
毎日

「検定意見を文書化」

口頭改め調査審、文相に提言

この時に指摘事項一覧表が渡されるが、どこが検定基準に抵触しているかの結論を記しているだけで、口頭で説明を受けないと、抵触した理由や、どう改めれば合格するかが分かりにくい仕組みになって

いる。
こうした現行の方式では、公式の検定意見と調査官個人の「感想」が混同されることもあり、不明朗な「密室検定」を生むと批判があった。

【岡崎 康次】

教科用図書検定調査審議

会(文相の諮問機関)は13日、2002年度からの新教育課程で使う教科書の改善策を有馬朗人文相に提言した。知識暗記型で無味乾燥と批判が強い教科書を①枝葉末節の知識を扱わず、基礎・基本的な内容に絞る②知識・技能が実生活に生

かされる内容にする――な

ど6項目の改善点を挙げた。また教科書検定の過程で執筆者側へ口頭で行われてきた検定意見の通知は文書化し、あいまいさを生まないようにする。文部省はこれに沿って検定基準を改め、新学習指導要領に基づき、1999年12月の検定作

業から適用する。

検定基準の具体的な改善策としては、教科書に盛り込む内容を不必要に拡大しない▽他の教科と重複する内容を扱わない▽学校の工夫で指導すべき内容は教科書には記述しない――を提案した。
教科書の検定意見は多い

年で2万3000件、少ない年でも3000件。出版

社から教科書の申請を受けた文部省の調査官が検定意見案を作成して教科用図書検定調査審議会に報告し、審査する。報告内容や審査結果は文書化されず、文部省の教科書調査官から執筆者側に口頭で伝えられる。